

Q7：発達障害のある児童生徒への対応をどのように行ったらよいか。

A：発達障害のある児童生徒の支援にあたっては、校内委員会で検討した個別の指導計画に基づき、全校体制で進める必要がある。その際、保護者の理解を得たり、場合によっては関係諸機関との連携を図ったりすることも大切である。

なお、特別支援教育啓発資料1「小・中学校で特別支援教育を進めるために」（県教委）も参照されたい。

### (1) 発達障害のある児童生徒への支援についての考え方

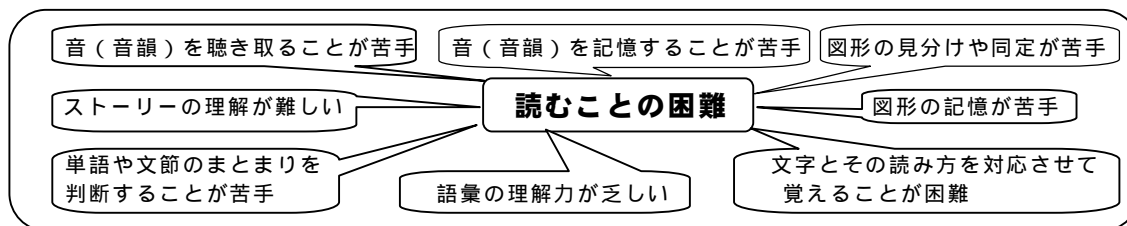
特性そのものを変えようとするのではなく、より適応できる形へと変化させる。

子どもの特性や困難の背景は一人一人異なる。また、発達障害の児童生徒が抱えている問題すべてに対応できる方法は存在しない。個別の指導計画を活用し、児童生徒の特性等を総合的に理解して必要な支援を行う。

### (2) 学習面での支援のポイント

学習困難の背景について考える。

(例) 文章を読むことの困難の背景



特性や困難に応じた支援を行う。

(例) 読むことが苦手な子への支援

- ・文字を大きくしたり、文節ごとに句切って読みやすくする。
- ・読みにくい漢字には、ふりがなをふる。
- ・一度に読む量や1ページの文字数を少なくする。
- ・国語の教科書などは、何度も一緒に音読して(唱えて)覚える。
- ・本や新聞などを読み聞かせて、知識を高めたり関心を広げたりする。

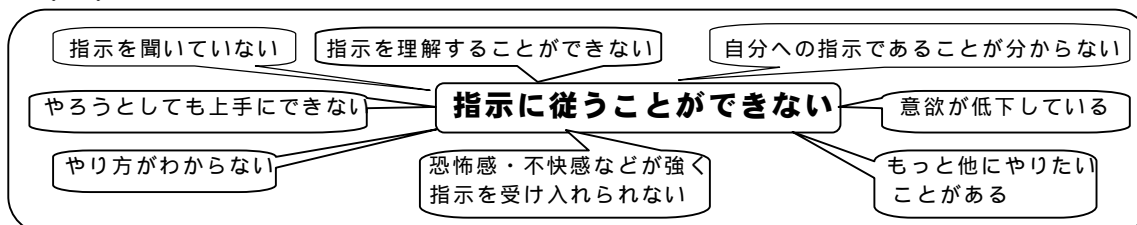
得意なこと、好きなことを活かす。

課題の量を加減したり文字や図の大きさを大きくするなど、苦手なことへの配慮や援助をする。

### (3) 行動面での対応のポイント

問題行動の背景を考える。

(例) 指示に従うことができないという問題の背景



行動の問題に適した対応を考える。

- ・見逃すことが可能な行動 注目しない。
- ・特別な指導が必要な望ましくない行動  
落ち着いた声と態度で話す。  
児童生徒の心情や行動の背景を理解する。  
何がどうしていけないか、どう行動すればよいかを簡潔に明確に指導する。  
話し合ったことを紙に書いてまとめる。

- ・危険な行動 その場から離し子どもの気持ちが落ち着いてから指導する。

社会認知や社会的スキルへの支援を行う。(自己理解 感情のコントロール など)

周囲の環境や対人関係を調整する。

### (4) 保護者との連携

保護者の負担は非常に大きいことを理解し、気持ちを受け止める。

保護者を責めず、具体的な事実を伝えて、互いにより対応を探る。

情報が必要な目的を明確にし、その取り扱いには細心の注意を払う。

家庭での対応について具体的な目標を絞り、保護者と一緒に評価する。

保護者の労をねぎらう。

### (5) 専門機関・関係機関との連携

地域の専門機関・関係機関に関する情報を収集する。

専門機関等での相談を勧奨する場合は、保護者に相談の必要性などを説明し、了解を得る。

家庭と学校と専門機関で連携しながら支援を行うことが重要である。